

第1号案件に新発田市選定

中小水力発電 事業化に向け協議進める

大成ロテック

道路建設業界では初の試みとして、再生可能エネルギーである中小水力発電の事業化を目指す大成ロテックは、第1号案件の候補地に新潟県新発田市を選定した。9月25日に西田義則社長が下妻勇新発田市副市長、石井加治川漁業協同組合長を



下妻副市長(左)と西田社長(右)

表敬訪問した。

下妻副市長を表敬訪問した西田社長は、「事業化に向け新発田市および関係各所と協議を重ねており、加治川漁協にもご支援、ご協力をいただいている」と述べた。また、石井組合長に対しては、事業化に向けた協力への謝意を示した。

石井組合長は「CO₂削減を主旨とした再生可能エネルギーの採用は評価している。中小水力発電事業については賛同の立場をとっている。地元企業とともに加治

川流域発展への寄与を期待する」と述べるとともに、事業に同意する旨を表明し、同事業の漁業協同組合同意書を手渡した。

同社は、18年から中小水力発電の事業化を目指し、今年4月には環境エネルギー部を創設。全国の候補地の調査を進める中で、同社の創業者である大倉喜八郎翁の生誕の地である新発田市を流れる加治川流域を第1号案件に選定した。また併せて、中小水力発電用の除塵機能付き取水器を開発している。

同社では、再来年以降を目途に発電所の設置を目指しており、主にアスファルト合材製造時に発生するCO₂をニュートラル化すべく、今後更に各地で事業化を加速させていく。